

## CD『カムイ伝説』のご案内

神々のすむ場所「積丹」には、古くからさまざまな伝説が語り継がれ、なかでも神威岬は「義経伝説」にまつわる悲恋の物語で彩られています。

源頼朝の追っ手を逃れて北上した義経主従は、神威岬で暮らしたのちに大志を遂げるために旅立ち、二度と積丹の地に戻ることはなかったと伝えられています。義経を慕い、その子を宿したアイヌの娘メヌカは、「来年必ず戻る」という義経のこぼれを信じ待ち続けましたが、1年たっても義経は戻らず、悲しみのあまり「今よりのち、ここを通る女を乗せた和人の船は転覆させずにおくものか」と叫び、海に身を投げてしまいました。

神威岬の先に立つ巨岩「メヌカ岩」は、娘メヌカの化身と伝えられており、現在でも神威岬の先端へ続く遊歩道の入口には「女人禁制の地・神威岬」の門札が掲げられています。

トンネル崩落事故の慰霊のため、積丹半島を訪れた作家で道路審議会委員でもある田村喜子さんは、神威岬の先端に立ったときに感じた、愛する人を失う痛みや、いとしい人の姿をこの世でもう二度と見るのできない悲しみを詩に綴られました。この詩に田村さんの友人である作曲家の原正美さんが協力し、森山良子さんの透明感ある歌声で『カムイ伝説』が誕生しました。

積丹半島の神秘的で荘厳なイメージが表現された『カムイ伝説』を是非一度お聴きください。



定価 1,000 円 (消費税別)  
企画制作: 『カムイの伝説』制作実行委員会  
問合せ先: マヴィ (株) 『カムイ伝説CD事務局』 係  
〒 105-0012 東京都港区芝大門 2-4-5 芝ダイヤハイツ 1010  
TEL 011-643-5145 FAX 011-643-5369

## 故大橋 猛氏の著述から

「東南アジアの人にとって、北海道の自然とか雪は、我々が思っている以上に魅力を感じてくれる可能性が高い。事実、道内の有名な観光地では、台湾などからの団体旅行客が増えているという。国内からの観光客が大きく伸びる可能性は少ないことを考えると、今後一層アジアへ目を向けるべきである。…(中略) …北海道にとって、世界との交流はこれからますます重要な課題であろう。だが、国内向けには地域活性化の指標として、交流人口の重要性をうたいながら、世界との交流となると何故か無関心のように思える。世界を知る日本人が増えることも大切だが、日本を知る外国人を増やすことも同様に大切なことではなからうか。せめてアジアの中では一番外国人旅行者が多い国になるよう、規制緩和と魅力づくりに心がけなければならない。そのためにも行政改革の中で、観光文化省構想があっても不思議ではない。」

(『新・北海道飛躍のシナリオ』より)

過日、台湾中部が大地震に見舞われた。北海道観光への影響も憂慮される。ポータレス時代を実感せざるをえない。被災者のご冥福をお祈りするとともに一日も早い復興を期待したい。

## 『北海道舗装史』を無料頒布します

北海道土木技術会舗装研究委員会発行の『北海道舗装史』上巻(昭和 60 年 7 月 31 日発行)及び下巻(昭和 61 年 12 月 31 日発行)が無料頒布されます。ご希望の方は下記に FAXにてお申し込みください。

なお、送料につきましては実費をご負担していただきます。

問合せ・申し込み先:  
北海道土木技術会  
舗装研究委員会 事務局  
〒 060-0062  
札幌市中央区南 2 条西 5 丁目  
6 番地 メゾン本府 5 階  
TEL 011-222-1921  
FAX 011-232-3823



## 編集後記 From Editorial Room

- 北海道の道路を観光という視点から眺めてみると、我々は非常に恵まれた資産を有していることに改めて気付かされる。既にある資産の中にいかに価値を見出し、また創造していくことができるか。そこにこれからの地域の活力と競争力が懸かっている。そのためにも地域発の情報発信が欠かせない。多くの人にその価値を知ってもらい、喜んで使ってもらってこそ、資産としての道路は生きてくる。地域の人々のアイデアと努力が資産の価値と地域の競争力を決定づける時代なのである。(Y.K)
- 国土庁地方振興局に勤務していたころ、豪雪地帯のリゾートによる振興策を検討していたことがありました。その時に強く感じたのは、豪雪地帯の夏と冬のギャップの大きさと、冬の道路の重要性でした。豪雪地帯対策であらゆる対策に優先するのは道路対策です。通年観光に向け道路の役割の重要性はますます大きくなると思っています。(A.O)
- 「維持の時代」といわれて 10 数年が過ぎたが、維持予算は年々厳しくなる一方。予算の確保と効率的な業務遂行は道路維持担当者共通の課題ですが、技術者としてだけでなく、人間としても技術力の向上や創意工夫が今まで以上に求められている。「北の交差点」を読んで、みんなでガンバロー。(S.H)

## 『北の交差点』とは…

古来、道が交わるころでは、人々の交流が生まれ、さまざまな文化が育ってきました。『北の交差点』というタイトルは、安全で快適な道路環境の創出をめざして、維持・管理に係る「人」や「情報」が交流するところをイメージしています。

安全で快適な道路環境の創出を目指す技術情報誌

## 北の交差点® VOL.6

- 1999 年 11 月発行
- 編集・発行/財団法人北海道道路管理技術センター  
〒 060-0807 札幌市北区北 7 条西 2 丁目東京建物札幌ビル 6F  
TEL 011-736-8577 FAX 011-736-8578
- 制作・印刷/株式会社須田製版